

			科目コード	438
科目名	生理機能検査学実習Ⅱ (Practice in Clinical Physiology Ⅱ)		開講学科	臨床検査学科
選択区分	必修	単位数(時間)	1単位(45時間)	履修時期
				3年次後期
担当教員	野島 一雄、岡村 法宜		科目区分	専門科目
授業概要	1班4～5名のグループとなり、学生自身が検者、被検者として実際に検査を行い、手技の習熟、被検者(患者)に対する配慮、および検査データの評価を行い、様々な疾患における生理機能検査の意義について理解する。(オムニバス方式)			
授業目標	講義で学んだ検査項目について、実際に検査機器を用いて検査および計測を行い、検査項目の意義、検査技術について理解を深める。			

授業内容

実 習 内 容	
	<p>① 脳波(1) [脳波の測定(10/20法、睡眠脳波)]</p> <p>② 自律神経検査 [心拍変動検査] [サーモグラフィー]</p> <p>③ 心機図 [心尖拍動図、頸動脈波、心音図]</p> <p>④ 平衡機能検査 [足踏み検査、重心動揺検査、眼振電図]</p> <p>⑤ 代謝機能 [運動時の代謝の測定]</p> <p>⑥ 超音波検査(1) [腹部臓器の超音波検査]</p> <p>⑦ 超音波検査(2) [頸動脈の超音波検査]</p> <p>⑧ 筋電図 [下肢誘発筋電図、神経伝導速度の測定]</p> <p>⑨ 感覚機能検査 [視覚誘発電位、味覚検査、嗅覚検査]</p> <p>上記の項目・内容で実習を行う 4～5名のグループで行うが、実習の具体的な内容および日程、班分けは実習開始前のオリエンテーション時に連絡する 実習は担当教員全員で行う</p>
成績評価方法	レポート(60%)、定期筆記試験(40%)
教科書	大久保善朗ほか「臨床検査学講座 生理機能検査学第3版」(医歯薬出版)
参考図書等	宮武邦夫、増田喜一「実践生理機能検査テキスト」(メディカ出版) 江永学「手にとるようにわかる超音波検査法」(ベクトル・コア)
備考	実習開始前のオリエンテーション時に 班・日程・内容・各実習上の注意点およびレポートの作成上の注意点等について記したレジメを配布する。 実習レポートは各自が提出し、内容によっては再提出を求める。